

パキスタンあれこれ（１）～「家畜王国」・バルチスタン

バルチスタン州は面積 34.7 万 km² でパキスタン全体の約 44%を占める国内最大の州ですが、雨が少なく乾燥しているためその多くは植生がまばらな山岳地や沙漠地帯です。耕地面積は約 5%ですが、作付けされるのはその半分程度しかありません。乾燥地に共通していえることですが、ここバルチスタンでも畜産の重要性が大きく、耕作に適さない広大な土地は放牧地（Grazing Land）として利用されています。1986 年の畜産センサスによれば、バルチスタン州におけるヤギおよび羊の頭数は 730 万頭および 1,110 万頭で、これはパキスタン全体の 24%および 48%にあたります。ヤギ・羊のほか、牛 110 万頭、鶏 600 万羽、ラクダ・ロバ・馬等が 75 万頭と続いています。それに対して人口は、1990 年の推定値で 700 万人程度（パキスタン全体の約 6%）しかなく、バルチスタンは人口よりもヤギや羊の頭数の方が多い「家畜王国」と言えます

一口にヤギや羊といってもいろいろな種があり、羊毛を取るには Harnai 種、上質のマトン肉は Baloch 種及び Bivragh 種とされています。牛では、Kachhi 平原の Bhagnari 種は農耕用に優れており、Lasbella 地区の Red Sindhi 種は高温・乾燥気候に順応した最上級の乳牛種として有名だそうです。また、バルチスタン州では農業省とは別の組織として畜産省があり、新品種の導入や在来種の改良研究等も行われています。

放牧地といっても豊かな牧草地が広がっているわけではなく、写真にあるような Rangeland と呼ばれる貧しい植生の土地がほとんどです。Rangeland は「self-regenerating and self-maintaining vegetation used for livestock grazing」と定義されています。家畜飼料の 80%以上を Rangeland に頼っている、という報告例（FAO の調査）もあります。そのほか飼料としてはアルファルファ、メイズ、ソルガム、大麦等の牧草や作物残渣（収穫後の小麦等）も使われます。畑の雑草もここでは貴重な飼料の一つだそうです。

Rangeland を試験的にフェンスで囲って放牧する家畜をシャットアウトしている地区が Quetta 近郊にあります。乾物生産量は周辺地域とは格段の差があり、年間雨量が 200～300mm のところでも植生回復のポテンシャルがあることがわかります。実際には Rangeland をフェンスで囲うのは地域住民や遊牧民との関係や経済的問題もあり難しいようです。住民参加型で地元の人達に理解してもらい、住民を巻き込んだ形で Grazing Control をすることで、植生の回復を図りながら放牧地の荒廃を防ぐことがこのような乾燥地での Sustainable Grazing につながるのでは、と思います。



植生がまばらな Rangeland



放牧中のヤギ・羊の群